



民法

五



414
A2651
5



民法第五卷

自四百九十八條
至六百一十一條

大正
十
月
贈

契約篇二

義務消散スル事

義務ヲ尽クス方法

義務者ニ代テ之ヲ尽シタル人權利者ノ

權ニ代ル事

數箇ノ義務中ノ一ヲ尽スニ充テ用ル事

義務者其義務ヲ尽クサント提供スル事

大正
十
月
贈

及々其負ノタル諸件ヲ官署ニ預クル事
 義務者其財産ヲ抛棄スル事
 權利者ノ意ヲ以テ其義務ヲ解除スル事
 二箇ノ義務互ニ差引スル事
 權利ト義務ト渾同スル事
 引渡スヘキ物ノ滅尽スル事
 契約ヲ廢棄スル事
 義務ノ證及々義務ヲ尽シタルノ證

證書

證人

思料ノ事

法律上ニ定ノタル思料ノ事

法律上ニ定メサル思料ノ事

自認

請書對證書ノ事

契約ナクシテ生スル義務

准契約

故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ハタル所行及
過失ニテ人ニ損害ヲ加ハタル所行

民法第五卷

契約篇二

義務消散スル事

第四百九十三條 義務ハ左ノ要件ニ因テ消散

ス

義務ヲ盡クス時

義務ヲ更改スル時

権利者ノ意ヲ以テ義務ヲ解除スル時



二箇ノ義務互ニ差引スル時

権利ト義務ト渾同スル時

義務ノ目的タル物ノ滅尽スル時

契約ヲ廢棄スル時

義務ヲ解除スヘキ未必ノ條件ノ生ス

ル時

満期間義務ヲ得ント要シサルニ因リ

終ニ之ヲ行フニ及ハサルニ至リシ時

義務ヲ盡クス方法

第四百九十四條 一方ヨリ他一方物件ヲ渡シタル

時ハ必ス義務アリテ之ヲ為シタルモノト思

料ス可シ若シ義務ナクシテ物件ヲ渡シタル

時ハ之ヲ取戻スヲ得可シ

自己ノ意ニ隨ヒ法律ニ管セサル義務ヲ盡ク

シテ物件ヲ人ニ渡シタル時ハ之ヲ取戻スヲ

得ス

第四百九十五條 義務ハ本人ニ非スト雖モ本人ト共ニ之ヲ行フ可キ者又ハ本人ノ保證人等ノ如ク總テ其義務ニ管シタル各人之ヲ盡スヲ得可シ

又義務ニ管セサル者ト雖モ義務者ニ代リ之ヲ行フ時ハ其義務ヲ盡クシタリトス可シ然モ其義務ニ管セサル者自己ノ名義ヲ以テ其義務ヲ行ヒタル時ハ其義務ヲ盡シタリトセス

第四百九十六條 事ヲ為ス可キ義務ヲ得可キ者其義務者ノ自カラ之ヲ行ハント欲スル時ハ其義務ニ管セサル者權利者ノ意ニ背キ義務者ニ代テ之ヲ行フヲ得ス

第四百九十七條 法ニ適シテ義務ヲ盡クサントスルニハ其者他ニ渡ス可キ物ノ所有者ニシテ且ツ其物ヲ渡ス可キノ權アルヲ必要トス然モ金高又ハ使用シテ次第ニ減損ス可キ物

一、縱令其所有者ニ非ラス且渡ス可キノ權ナ
キ者之ヲ渡シタル時ト雖モ權利者正實ニ其
物ヲ使用シ減損シタルニ於テハ其真ノ所有
者其物ヲ取戻ヤント要ムルヲ得ス

第四百九十八條 義務ヲ盡クス可キ為ノ物件ヲ渡

スルハ其權利者又ハ其權ニ代リタル者又ハ
裁判所ノ言渡及ヒ法律ニ因リ其者ニ代リ物
件ヲ受取ル可トノ權ヲ有スル者ニ之ヲ為ス

可シ

權利者ニ代リ物件ヲ受取ル可トノ權ヲ有セザ
ル者ニ其物件ヲ渡シタル時ト雖モ本人其事ヲ
承諾シ又ハ其事ニ因リ利益ヲ得タルトアル
ニ於テハ其義務ヲ盡シタリトス

第四百九十九條 義務者義務ヲ得可キノ權利ヲ現

ニ有スル者ニ對シ正シク其義務ヲ行フタル
時ハ若シ其者後ニ其權利ヲ失フコトアリト雖

モ義務者其義務ヲ盡シタリトス

第五百條

義務者其義務ノ目的タル物件ヲ

渡シタルト雖モ之ヲ受取ル者其權利ナキ時

ハ其義務ヲ盡シタリトセス但シ其渡シタル

物件權利者ノ利益トナリシ旨ヲ證スル時ハ

格別ナリトス

第五百一條

縱令義務ヲ分ツ可キ時ト雖モ義

務者權利者ヲシテ其渡ス可キ物ノ一部分ノ

ミテ強テ受取ラシムルコトヲ得ス

然レ其事ニ付キ訴ノ起リタル時ハ裁判役義

務者ノ様子ヲ考ヘ其義務ノ目的タル物件渡

方ニ付キ相當ノ猶豫ノ期限ヲ許ルシ暫ク其

訴ヲ中止セシメ其時間ハ諸事其儘ニ差置ク

可キコトヲ言渡スヲ得可シ但シ裁判役此權ヲ

行フニ付キテハ極メテ注意ヲ為スコトヲ必要

トス

第五百二條 豫メ定メ置キタル物件ヲ渡ス可
キ義務者ハ渡ス可キ時ノ模様ノ儘之ヲ渡シ
テ其義務ヲ盡シタリトス可シ但シ其者自己
ノ過失又ハ附托シタル人ノ過失ニ因テ其物
ノ毀損セシ時又ハ此等ノ者ノ過失ニ非スト
雖モ其催促ヲ受ケ尚ホ之ヲ渡サ、ル中ニ其
物ノ毀損セシ時ハ其義務ヲ尽シタリトセヌ

第五百三條 種類ノ定リシ物ヲ渡ス可キ義務

者其義務ヲ盡クサントスルニハ其種類中ノ
最良ノ物ヲ渡スニ及ハス又最惡ノ物ヲ渡ス
ヲ得ス

第五百四條 物件ノ引渡ハ契約ヲ以テ預定セ
シ地ニ於テ之ヲ為ス可シ若シ其他ヲ預定セ
サル時其渡ス可キ物ノ預メ定マリタルニ於
テハ其義務ヲ契約シタル時其物ノ在リシ地
ニ於テ之ヲ為ス可シ

此二箇ノ場合ノ外ハ總テ義務者ノ住所ニ於
ニ引渡ヲ為ス可シ

第五百五條 物件ノ引渡ス費用ハ義務者之ヲ
擔當ス可シ

義務者ニ代テ之ヲ盡シタル人權利者
ノ權ニ代ル事

第五百六條 義務者ニ代リ其義務ヲ盡シタ
ル時ハ其者權利者ノ權ニ代ル事ヲ得可シ但

シ此事ハ契約ヨリ生シ或ハ法律上ヨリ生ス

第五百七條 前條ニ記シタル事ハ左ノ二箇
ノ場合ニ於テハ契約ヨリ生ス可シ

第一 義務ヲ得可キ甲者丙者ヨリ義務ヲ
得ルニ因リ義務ヲ行フ可キ乙者ヨ
リ之ヲ得可キ自己ノ權ヲ總テ丙者
ニ移シタル時

但シ此代權ノ事ハ丙者乙者ニ代

テ義務ヲ盡クシタル時別段之ヲ
契約書ニ附記シ置ク可シ

第二 義務ヲ行フ可キ乙者甲者ニ對シ其
義務ヲ盡クス可キ為メ兩者ヨリ金
高ク借受ケ申者ノ權ニ代ラシムル
時〇此代權ノ事ヲ法ニ適シタルモ
ノト為サントスルニリ乙者兩者其
契約書ヲ証書人ノ面前ニ持參シ其

眞印ヲ取リ置クヘシ

第五百八條 前ニ記シタル代權ノ事ハ左ノ
二箇ノ場合ニ於テハ法律上ヨリ生ス可シ

第一 義務ヲ得可キ權アル甲者義務ヲ行
フヘキ乙者ニ代リ其書ハ債ノ權又
ハ債主ノ特權ヲ有スル債主ニ義務
ヲ盡シタル時

第二 義務ヲ行フ可キ乙者ヨリ不動産ヲ

買入レタル甲者乙者ヨリ其不動産ヲ
書入質トシテ得可キ債主ニ其買入
代金ヲ以テ償還ヲ為シタル時

第五百九條

前數條ニ循ヒ丙者乙者ニ代リテ

甲者ニ對シ義務ヲ盡クシタルニ因リ甲者ノ
權ニ代リタル時ハ丙者乙者ト其保証人トニ
對シテ償還シ要ムルノ權ヲ得可シ但シ丙者
乙者ニ代リ甲者ニ對シテ其義務ノ一分ノミ

ヲ尽タル寸ハ甲者其残りタル義務ヲ全ク乙
者ヨリ得タル後ニ非レハ丙者共償還ヲ得ニ
トボムルヲ得ス

數箇ノ義務中ノ一ヲ尽スニ充テ用フルヲ

第五百十條

一人ニ對シ數箇ノ義務ヲ負フ

タル者ハ其義務ヲ尽クス寸ニ當リ其數箇ノ
義務中何レノ義務ヲ尽クス可キヤヲ述フル
ノ權アリ

第五百十一條

息銀ヲ生スル債ヲ負フタル者其義務ノ一部ヲ尽クスハ先ツ息銀ヲ償フニ之ヲ充テ用ヒ然ル後主タル債ヲ償フニ充テ用フ可シ但シ之ニ反シタル償方ヲ為サントスルニハ權利者ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス
 ○又義務者主タル債ト其息銀トヲ償還スル名義ニテ義務ヲ尽クシタルト雖トモ其償フタル高主タル債ト其息銀トヲ合セシ高ニ滿ラサルトキハ先ツ息銀ノ償ニ之レヲ充テ用

第五百十二條

然ル後主タル債ノ償ニ充テ用フ可シ
 教箇ノ義務ヲ負フ者其義務ヲ盡クシタル時之ヲ得シ者其教箇中何ノ義務ヲ盡クスニ充テ用フルヤヲ定メ其義務ヲ盡クシタル者其受取書ヲ得タルニ於テハ更ニ他ノ義務ヲ盡スニ充テ用フルヲ得ス但シ權利者詐偽脅迫ヲ為シタルトキハ格別ナリトス

第五百十三條

權利者ノ受取書ニ數箇中何レノ義務ヲ尽クスニ充テ用フルヤ別段定メサル時ハ義務者其尽クス可キ期限ニ至リシ數箇ノ義務中ニテ最モ先キニ盡サント欲スル義務ヲ盡クスニ充テ用フ可シ又其義務中ニテ未タ尽クス可キ期限ニ至ラサルモノアル時ハ如何ナル景状アリト雖モ既ニ尽クス可キ期限ニ至リシ義務ヲ尽クスニ充テ用フ

可シ○若シ又數箇ノ義務ノ種類皆等シキ時ハ其義務中ノ最旧ノモノヲ尽クスニ充テ用フ可ク又其數箇ノ義務ノ種類皆等シク且新旧ノ區別ナキ時ハ平等ニ數箇ノ義務ヲ尽クスニ充テ用フ可シ

義務者其義務ヲ尽クスハキ物ヲ提供ニル事及ヒ其負フタル諸件ヲ官署ニ預クル事

第五百十四條 權利者其得可キ物件ヲ受取ル
 一ヲ承諾セサル時ハ義務者其渡ス可キ物又
 ハ金高ヲ其權利者ニ現ニ提供シ若シ其者猶
 之ヲ得ル一ヲ承諾セサル時ハ其物又ハ金高
 ヲ預リ役所ニ預クヘシ
 義務者其渡ス可キ物又ハ金高ヲ既ニ提供シ
 其後之ヲ預リ役所ニ預リタルハ法ニ適シタ
 ル時ハ其義務ノ解除ヲ受ケ且義務ヲ尽シタル

ルニ均シキ知アリトス但シ義務者ノ役所ニ
 預ケタル物人ハ金高ハ權利者之ヲ已レニ引
 受ク可シ
 第五百十五條 義務者權利者ニ對シ負フタル物
 件又ハ金高ヲ法ニ適シテ提供スルニハ左ノ
 六件ヲ必要トス
 第一 物件又ハ金高ヲ自カラ受取ル可キ
 ノ權ヲ有スル者又ハ其者ニ代リテ

之ヲ受取ル可キノ權ヲ有スル者ニ
提供ヲ為ス時

第二 義務ヲ尽クスルヲ得可キ者之ヲ提

供ヲ為ス時

千二百三十
六條見合

第三 義務者ノ渡ス可キ物件又ハ金高及

ニ其息銀且既ニ算定シタル諸費用

高并ニ未夕算定セザル諸費用ノ見

積高ヲ提供スル時但シ未夕算定セ

サル費用ノ見積高不足ナル時ハ後
ニ之ヲ補足ス可シ

第四 權利者其義務ヲ得可キ期限ヲ約定

シタル時ハ其期限ニ至リシ時

第五 嘗テ義務ヲ契約セシ時預定シタル

未必ノ條件ノ現ニ生シタル時

第六 義務ヲ行ノ可キ為ノ預メ契約シタ

ル地ニ於テ提供ヲ為ス時又其義務

ヲ行フ可キ地ニ付キ別段契約ナキ
時ハ其權利者ノ面前ニ於テ提供ラ
為シ又ハ其者ノ住所或ハ契約履行
ノ為メ特ニ擇ミタル住一所ニ於テ提
供又為ス時

第五百十六條 義務者權利者ニ渡ス可キ物
件又ハ金高ヲ提供スル事法ニ適シタル時ハ
權利者其費用ノ擔當ス可シ

第五百十七條 義務者權利者ニ渡ス可キ物
件又ハ金高ヲ役所ニ預ケタル後權利者未ッ
之ヲ受取ラマル時間ハ其義務者之ヲ取戻ス
コトヲ得可シ但シ其義務者之ヲ取戻シタル
時ハ其者ト連帶シテ義務者又ハ其保證人其
義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百十八條 義務者權利者ニ渡ス可キ物
件ノ金高ヲ提供シ且之ヲ役所ニ預クルコト

法ニ適シタルノ確定ノ審判ヲ得タル時ハ縱令權利者ノ承諾アリト雖モ其義務者其預ケタル物件又ハ金高ヲ取リ戻スルヲ得ス但シ連帶シタル義務者及ヒ保證人ハ其義務ヲ免ル、コトヲ得ヘシ

義務者其財産ヲ抛棄スル事

一三六五

第五百十九條 財産ノ抛棄トハ義務者其義務ヲ尽クスル能ハサル時已レノ所有スル諸

般ノ財産ヲ尽ク權利者ニ任カスル事ヲ云フ

一三六六

第五百二十條 財産ノ抛棄ハ隨意ノモノアリ又ハ裁判所ノ言渡ニ因テ為スモノアリ

一三六七

第五百二十一條 隨意ノ財産ノ抛棄トハ權利者隨意ニ之ヲ承諾シ且其權利者ト義務者トノ間ニ當テ結ビ置キタル契約ノ終ニ行フコトヲ云フ

一三六八

第五百二十二條 裁判所ノ言渡ニ因テ為シタ

ル財産抛棄トハ正実ニシテ且不幸ナル義務者ヲシテ其身体ノ自由ヲ保タシムル為メ如何ナル契約アルヲ問ハス裁判所ノ言渡ニ因リ其所有スル諸般ノ財産ヲ尽ク權利者ニ任カスル抛棄ヲ云フ

第五百二十三條 裁判所ノ言渡ニ因リ財産抛棄ヲ為スト雖モ權利者義務者ノ抛棄シタル財産ヲ所有スルノ權ヲ得ルコトナク唯其財産

ヲ迫リ賣ス可キノ權ト其迫リ賣ニ至ル迄ノ時間其財産ヨリ生シタル入額ヲ所得ト為スノ權トヲ得可シ

第五百二十四條 義務者裁判所ノ言渡ニ因リ其財産抛棄ヲ為ス時ハ權利者之レヲ拒ムコトヲ得ス
又タ義務者其財産ノ抛棄ヲ為スト雖ヘトモ其抛棄シタル財産價ニ至ル迄ノ外其義務

第五百二十五條 義務ノ更改ハ左ノ三箇ノ方

義務ノ更改スル事

ノ解除ヲ得ス但シ拋棄シタル財産ノ價ト其
義ヲ全ク尽クスニ足ラザル時義務者後ニ他
ノ財産ヲ所得ト為スコトアルニ於テハ亦其
財産ヲ拋棄シテ其義務ヲ全ク尽クスニ至リ
初メテ其拋棄ヲ止ムヘシ裁判所言ヒ渡シ財
産拋棄ハ身代限リ別段ノ規則ニ循フヘシ

法ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第一 義務者權利者ニ對シ從來ノ義務ニ

代ヘ更ラニ新タナル義務ヲ契約シ

從來ノ義務ノ消散シタル時

第二 從來ノ義務者權利者ヨリ解除ヲ受

ケアラタナル義務者之レニ代リタ

ル時

第三 新タニ結ビタル契約ニ因リ新タナ

ル権利者従来ノ権利者ニ代リタル
ニ付キ其義務者従来ノ権利者ヨリ
其義務ノ解除ヲ得タル時

一三七二

第五百二十六條 義務ノ更改ハ契約ヲ為スヲ
得可キ人ノ間ニ非レハ之ヲ為スヲ得ス

一三七三

第五百二十七條 義務ノ更改ハ思料ノミヲ以
テ為ス可カラス其更改ヲ為ス可キ意アル
ヲ證書ヲ以テ分明ニ了知シ得可キヲ必要ト

ス

一三七五

第五百二十八條 従来ノ義務者自己ニ代リテ

新タナル義務者ヲ定メシ旨ヲ権利者ニ述フ
ルト雖氏其権利者従来ノ義務者ヲ解除スベ
キヲ書面ヲ以テ證シタル時ニ非レハ義務
ノ更改ヲ為スヲ得ス

一三七六

第五百二十九條 権利者従来ノ義務者ヲ解除
シタル時ハ新タナル義務者其義務ヲ行フ

能ハサルニ至ルヲアリト雖モ從來ノ義務者ニ對シ訴訟ヲ為スヲ得ス但シ此場合ニ於テ從來ノ義務者ニ對シ訴訟ヲ為スヲ得可キヲ別段証書ニ記シタル時ハ格別ナリトス

第五百三十條

義務者自己ニ代ルヘキ義務者ヲ指示シタルノミニテハ義務ノ更改スルヲナカル可シ

又權利者自己ニ代ルヘキ權利者ヲ指示シタ

ルノミニテハ義務ノ更改トナスヘカラス名代人ト見做スヘシ

第五百三十二條

權利者ト連帯シテ義務ヲ行フ可キ数人中ノ一人ト義務ノ更改為シタル時ハ連帯シテ義務ヲ行フ可キ其他ノ者ハ其義務ノ解除ヲ受ク可シ

權利者ト主タル義務者ト義務ノ更改シタル時ハ其保證人已レノ義務ノ解除ヲ受クベシ

権利者ノ意ヲ以テ其義務ヲ解除スル
事

一三八二

第五百三十二條 権利者ノ意ヲ以テ義務者ニ
證書ヲ渡シタル時ハ其義務ヲ解除シタルノ
證アリトス

一三八五

第五百三十三條 権利者連帯シテ義務ヲ行フ
可キ数人中ノ一人ノ為ノ契約シテ其義務ヲ
解除シタル時ハ連帯シタル他ノ数人モ亦其

義務ノ解除ヲ受クヘシ但シ権利者
ソノ一人ヲ解除スト雖ハトモ其他
ノ者ヲ解除セサレ言テ別段定メシ時
ハ格別ナリトス

一三八六

第五百三十四條 質トシテ取リタル物件ヲ還
シタルト雖モ其義務ヲ解除シタルト思料ス
可カラス

一三八八

第五百三十五條 権利者義務ノ保證人ヨリ其義

務ヲ解除ヲ得可キカ為メ出シタル所ノ物件
又ハ金高ヲ受取リタル時ハ之ヲ義務ノ償ノ
為メ充テ用ヒタルモノト為シ其高ニ至ル迄
主タル義務者並ニ他ノ保證人ノ義務ヲ解除
ス可シ

二箇ノ義務互ニ差引スル事

第五百三十六條 相互ニ義務ヲ行フ可キ者二
人アル時ハ後條ニ記スル場合ト方法トニ循

ニ其二箇ノ義務ヲ互ニ差引ス可シ

第五百三十七條 互ニ義務ヲ行フヘキ雙方ノ

者其差引スルノ方法ヲ知ルコトナシト雖ハ
トモ法律上ニテ其二箇ノ義務ヲ互ニ差引
引キスルコトアリ但シ此場合ニ於テハ其二
箇ノ義務ノ共ニ生フシタル時ソノ現在ノ高
ニ相ヒ當ルニ至ルマテ互ニ之レヲ差引
キス可シ

第五百三十八條

二箇ノ義務互ヒニ差引キス

ルコトハ金高又ハ度量スルコトヲ得可キ物件ノミニ付キ之レヲ為スコトヲ得可シ但シ是レカ為ノ其金高又ハ度量ス可キ物件ノ高確定シ且ツ既テ其渡シ時限ノ至リシコトヲ必要トス

第五百三十九條

二箇ノ義務ヲ互ヒニ差引ス

ルト雖ハトモ裁判所ヨリ一方ノ者ニ義務ヲ

行フヘキ期限ノ猶預ヲ許スコトヲ得可シ

第五百四十條

二箇ノ義務ハソノ生フシタル

ル原由ヨリ如何ナルヲ問ハス互ヒニ差引スルヲ得可シ然レトモ左ニ三箇ノ場合ハ格別ナリトス

第一

一方ノ者已レニ属シタル物ヲ他ノ

一方ニ横ニ奪取ラレ其物ノ取戻ヲ

求ムル時

第二 一方ノ者他ノ一方ニ預ケタル物件

又ハ他ノ一方ノ使用ス可キ為ノ債

與ハタル物件ノ取戻ヲ求ムル時

第三 一方ノ者他ノ一方ニ渡ス可キ差押ニ

可カラサル養料アル時 訴訟法原第
五百八十一

条見
合セ

第五百四十一條 義務者ノ保證人ハ義務者ト

權利者トノ間ニ二箇ノ義務互ニ差引シタル

トヲ述ヘ已レノ保證ノ義務ヲ免ル、ノ訴ヲ
為シ得可シ

然モ義務者ハ權利者ヨリ保證人ニ對シテ行

フ可キ義務アルトヲ述ヘ其義務ト自己ノ義

務トノ互ニ差引ス可キノ訴ヲ為ストヲ得ス

又連帯シテ義務ヲ行フ可キ数人中ノ一人ハ

權利者ヨリ他ノ一人ニ對シ行フ可キ義務ア

ルトヲ述ヘ其二箇ノ義務ヲ互ニ差引ス可キ

ノ許ヲ為スヲ得ス

第五百四十二條 二箇ノ義務ヲ同所ニ於テ尽クス可カラサル時ハ運送ノ費用ヲ算計シタル上ニ非レハ二箇ノ義務ヲ互ニ差引ス可キノ求メヲ為スヲ得ス

第五百四十三條 一人ニテ尽クス可キ數箇ノ義務ヲ負ヒ之ヲ他人ヨリ得可キ一箇ノ義務ト互ニ差引セントスルニハ原第二百五十

六條ニ記シタル規則ニ循ノ可シ

第五百四十四條 二箇ノ義務ノ互ニ差引スルニ因リ他人ノ權ヲ害スルヲナカルヘシ。故ニ義務ノ甲者權利ノ乙者ニ引渡スヘキ金高又ハ物件ノ差留ヲ他人ヨリ受ケシ後甲者乙者ヨリ其權利ヲ得タルニ於テハ其二箇ノ義務ヲ互ニ差引スルヲ得ヘシト雖モ之カ為ノ他人ノ權ヲ害ス可カラス

第五百四十五條 甲者乙者ニ對シテ行フ可キ義務ヲ乙者ヨリ得可キ義務ト互ニ差引ス可キ道理アルニ之ヲ差引スルコトナク乙者ニ對シ自己ノ義務ヲ尽クシタル時ハ甲者乙者ヨリ其義務ヲ得ルニ付キ債主ノ特權ヲ述べ他人ノ權利ヲ害ス可カラス

權利ト義務ト渾同スル事

第五百四十六條 權利ト義務ト渾同スルトハ

一人ニテ權利義務ヲ兼有スルヲ云フ

第五百四十七條 主タル義務者前條ニ記スル

如ク其權利ヲ兼有スル時ハ保證人已レノ義務ヲ免カル可シ

保證人義務ヲ得可キノ權利ヲ兼有シ又ハ權利者保證人ノ義務ヲ兼有シタル時ハ主タル義務ヲシテ消散セシムルヲ得ス

連帶シテ義務ヲ行フ可キ数人中ノ一人義務

ヲ得可キノ權利ヲ兼有シタル時ハ連帶シタル他ノ数人其一人ノ掌テ擔當シタル部分ノミノ解除ヲ受クルヲ得可シ

引渡ス可キ物ノ滅尽スル事

第五百四十八條 義務ノ目的タル者滅尽シタ時又ハ其物ヲ賣買スルヲ能ハサル模様ニ至リシ時又ハ其物ヲ遺失シ其現存スルヤ否ヲ知ルヲ能ハサルニ至リシ時其義務者權利者

ヨリ其物ヲ引渡ス可キノ求メヲ未タ受ヤル中ニ義務者ノ過失ニ非ラスシテ此等ノヲノ生シタルニ於テハ其義務消散ス可シ

又義務者之ヲ行フ可キノ求メヲ受ケシ後ト雖氏其引渡ス可キ物意外ノヲニ因テ滅尽セシ寸其責ニ任ス可キヲ預定セス且縱令其物ヲ權利者ニ引渡シテ其所有ト為シタルト雖氏亦滅尽ス可キ場合ニ於テハ其義務消散

ス可シ

義務者意外ノコトヲ述ル寸ハ其證ヲ立ツ可シ
盜贓物ハ其滅尽シ又ハ見失ヒタル事田ノ如
何ナルヲ問ハス其義務消散スヘカラス

第五百四十九條

義務者ノ過失ニ非スシテ其
引渡ス可キ物ノ滅尽シ又ハ賣買ヲ為ス可ク
サルニ至リシ寸又ハ之ヲ遺失シタルトキ其
物ニ付キ從來他人災難受合ニ對シ訴ヲ為ス

可キノ權又ハ償ヲ得可キ權アルニ於テハ其
權ヲ其權利者ニ移ス可シ

契約ヲ廢棄スル事

第五百五十條

契約ヲ廢棄ス可キ訴ハ一年
内ニ之ヲ為スヘシ

但シ別段法律ニ因リ期限ヲ特ニ定メタル
時ハ格別ナリトス

契約ヲ結フニ付キ暴行脅迫ノ事アル時ハ其

事ニ過ヒタル日ヨリ其一年ノ期限ヲ算ヘ又
錯誤及ヒ詐偽アル時ハ之ヲ知リタル日ヨリ
其期限ヲ算ヘ又婦其夫或ハ裁判所ノ允許ヲ
得ルトナク結ヒシ契約ニ付テハ其夫婦ノ縁
消セシ日ヨリ其期限ヲ算シ治産ノ禁ヲ受ケ
シ者ノ結ヒタル契約ニ付テハ其禁ノ免シテ
受ケシ日ヨリ其期限ヲ算ヘ又幼者ノ結ヒタ
ル契約ニ付テハ其丁年ニ至リシ日ヨリ之ヲ

算ヲ可シ

第五百五十一條 契約種類ノ如何ナルヲ問ハ
ス幼者ハ其契約ノ為メ損害ヲ蒙リタルニ因
リ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第五百五十二條 幼者其結ヒタル契約ノ為メ
損害ヲ蒙リタルト雖モ其損害意外ノ事ニ管
シタル時ハ之レカ為メ其契約ヲ廢棄ス可カ
ラス

第五百五十三條 幼者初ノ契約ヲ結ビタル時
其丁年ニ至リシ事ヲ述ヘタルノミニテ其
証ナキ時ハ其契約ヲ廢棄スルノ妨トナルト

ナシ 原千三百十
條見合セ

第五百五十四條 商業ヲ為シ又ハ為替座ヲ支
配シ又ハ工作ヲ為ス幼者ハ其職業ノ為メ結
ビタル契約ヲ廢棄スルトヲ得ス原第四百八十
七條見合セ

第五百五十五條 幼者故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加

ヘ又ハ過失ニテ人ニ損害ヲ加ハタル時其損
害ヲ償フ可キ義務ハ之ヲ廢棄ス可カラス

第五百五十六條 凡ソ人未タ丁年ニ至ラサル
時結ビタル契約書ノ體裁不當ナルニ因リ全
ク其効ナキト其契約書ヲ廢棄スルノ詐ニ為
シ得可キト問ハス其人丁年ニ至リテ更ニ
之ヲ確定シタル時ハ之ヲ廢棄セントスルト
ヲ得ス

第五百五十七條

幼者治産ノ禁ヲ受ケン者有
 夫女其結ビシ契約ヲ廢棄ス可キ允許ヲ受ケ
 タル時ハ契約シタル一方ノ者ヨリ此等ノ者
 ニ對シ其幼年ノ時間治産ノ禁ヲ受ルニ時間
 婚姻ヲ結ビタル時間其契約ニ因リ既ニ渡シ
 タル物件ヲ取戻ス可キノ訴ヲ為スコト得ス但シ契約シタ
 ル一方ノ者ヨリ渡シタル物件幼者治産ノ禁ヲ受ケン者有
 夫女ノ利益トナリタル證アル寸ハ格別ナリトス

第五百五十八條

丁年者ハ別段民法ニ記シタル
 場合ト規則トニ據ラサレハ其損害ヲ蒙リタ
 ルノミニ因リ契約ヲ廢棄ス可カラス 原第八
百八十

第五百五十九條

不動産ヲ他人ニ贈與シタルハ
 賣拂ノ事及ビ遺物ヲ分派スル事ニ付キ幼者
 又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者ノ為メ必要ナル法
 式ヲ用ヒテ契約ヲ為シタル上ハ此等ノ者其

大正官

契約ニ付テハ既ニ丁年ニ至リシ後又ハ治産ノ禁ヲ受ケル前ニ之ヲ為シタルモノト看做ス可シ
原四百五十八條四百五十七條四百六十三條四百六十六條見合

義務ノ證及ヒ義務ヲ尽シタル時

第五百六十條 凡ノ義務ヲ得ント求ムル者

ハ之ヲ證ス可シ

又既ニ義務ノ解除ヲ得タルヲ述フル者ハ其義務ヲ尽クシタル事又ハ義務消散シタ

ル事ヲ證ス可シ

第五百六十一條 證書證人思料自認請書對談書ニ管スル規則ハ左ノ數條ニ之ヲ記載ス

證書

第五百六十二條 證書ノ廣造タルヲシ

テ訴フル時 書類廣造ノ訴ヲ刑ハ其證書ノ如法裁判所ニ為ス時

ノ執行アヲ必ス停止ス可ク又其證書ノ廣造タルヲ附帶ノ訴トシテ訴フル時 民法ニ管シタ

レ訴ニ添ヘラ書類ノ質造タルヲ民法裁判
所ニ訴出ス時ヨシフ訴訟法第二百十八條見
合ハ裁判所ニテ其時ノ模様ニ從ヒ假リニ其
證書ノ如ク執行ノヲ停止セシムルヲ得
シ

第五百六十三條

總テ證書中ニ記スル諸事ハ

縱令ヒ説明ノ為ノノミニ記シタル條件ト雖
モ直チニ契約ノ趣意ニ管シタルモノタル時
ハ其契約ヲ結ビタル雙方ノ間ニ於テ之ヲ確

證ナリトス可シ。直チニ契約ノ趣意ニ管セ
サル説明ノ條件ハ之ヲ證據ノ端緒ノミト為
スヲ得可シ

第五百六十四條

雙務ノ契約ヲ記シタル證書

ハ各自ノ權利ヲ有スル者ノ數ニ在リ其言
數通ヲ記シタルニ非レハ其効ナカル可シ
同一ノ權利ヲ有シタル數人ニ付テハ一通ノ
證書ヲ以テ足レリトス

證書各通ニハ之ヲ幾通ニ記シタルヤシ印記
ス可シ

第五百六十五條 片務ノ契約ハ權利者ノ其證
書ヲ有シテ可ナリ義務者其證書ヲ取方
ル時ハ其義務ノ解除ヲ得タルノ證トス

第五百六十六條 凡證書ハ手記スルヲ必要ト
ス若シ手記スル能ハザル者ハ代筆ヲ用エト
雖モ姓名ハ必ス手記シ調印スヘシ其金高物

件ノ分量ヲ記スルニハ一二十ハ三貳拾ノ字
ヲ用フ可シ

第五百六十七條 凡印鑑ハ年月ヨリ傍記シ其
管轄地ノ戸長ハ差出シ置ヘシ若遺失或ハ盜
去ラシ印形ヲ改メシ時ハ其年月ヨリ傍記シ
連ニ差出スヘシ其年月日後ニ押セシ印ハ
總テ證タルヲ得ス

第五百六十八條 商賈ノ簿冊ハ商賈ニ非サル

者：對シ其簿冊ニ記シタル物品引渡、證、
為ス可カラス

一三三〇

第五百六十九條 又商賈ノ簿冊ニ記スル所ハ
其商賈已ノ損トナル可キノ證ト為ラズ
待
可シ

一三三一

第五百七十條 家内ノ簿冊又ハ書類ニ記ス
ル所ハ之ヲ記シタル者ノ益トナル可キ證ト
為ス可カラス左ノ二箇ノ場合ニ於テハ其者

ノ損トナル可キ證ト為ス可シ

第一 其簿冊及ヒ書類ニ既ニ人ヨリ物件
ヲ受取シ事ヲ明白ニ記スル時

第二 其簿冊及ヒ書類ヲ記シタル者自己
ヨリ義務ヲ得可キ者ノ權利ノ證書
ノ欠ケタルヲ補フ可キカ為メ其簿
冊及ヒ書類中ニ自カラ其義務ヲ負
フタルヲ記セシ旨ヲ別段附記シ

大正官

タル時

一三三三

第五百七十一條 雙務ノ證書ハ其證書中ニ義務者ヲシテ其義務ノ解除ヲ得セシメタル文詞ヲ記入シタル時ハ權利者其姓名及ビ附テ手記セスト雖モ其義務ノ解除ノ證トナス可シ

但シ副本タリト雖モ同權タルハシ

一三三五

第五百七十二條 證書ノ正本込失スル時ハ其

副本ヲ以テ參考ノ為メ之ヲ用ユルヲ得ハシ

證人

一三四一

第五百七十三條 人ノ隨意ニテ預ケタル物ト雖モ拾圓以上ノ金高及ビ物件ニ付テハ證人ヲ以テ證ヲ立ツ可カラス
但シ此規則ヲ以テ高法ニ定ムル所ノ規則ヲ害スルコトナカル可シ

大正官

第五百七十四條 拾圓以上ノ金高并物件ト雖
 トモ其證書ニ失シ被告人又ハ其名代人ノ記
 シタル書面アリテ原告人ノ訴フル所正実ナ
 ル可シト思料スルヲ得可キ時ハ證人ヲ以テ
 證據ノ端緒トナスヲ得ヘシ

第五百七十五條 權利者已レノ契約シタル義務
 ノ證書ヲ得ルヲ能ハサルノ情実アル時ハ証
 人ヲ以テ證ヲ立ルヲ得ヘシ此事ハ左ノ四

件ニ於テ之ヲ用フ可シ

第一 准契約

別ニ契約ヲ結フ事ナク人ノ
 隨意ニテ為シタル事ヨリ義

務ニ其シタル
 約束ヲ云フ 又ハ故意ヲ以テ人ニ損害

ヲ加ヘタル所行或ハ過失ニテ人ニ

損害ヲ加ヘタル所行ヨリ生シタル

義務アル時

第二

火災崩潰騷亂破船等ノ場合ニ於テ

止ムヲ得ス人ニ物ヲ預ケタル時又

ハ旅舎ニ宿シタル旅客其物件ヲ預
ケタル時

但シ此等ノ事ハ其人ノ模様ト其時
ノ景状トニ從テ定ム可シ

第三 證書ヲ記シ能ハナル意外ノ事ニ因
リ契約シタル義務ヲ得可キ時

第四 権利者抗拒ス可カラサル意外ノ事
ニ因リ其證書ヲ失ヒタル時

思料ノ事

第五百七十六條 思料トハ法律上ニ定ムル所
ニ因リ又ハ法律上ノ定ムル所ニ因リ裁判後
ノ判断ニ因リ知り得タル事ヨリ知り得サル
事ト推シ及シテ思料スルヲ云フ

法律上ニ定メタル思料ノ事

第五百七十七條 法律上ニ定メタル思料トハ
別段設ケタル法ニ因リ證書又ハ所為ニ付キ

思料ヲ為ス事ヲ云フ但シ其證書及ヒ所為ハ
左ニ記スル所ノモノナリトス

第一 證書ノ旨趣ニ因リ法律ニ背キタル
ヲテ思料シ其効ナキ旨ヲ法律上ニ
定ムル場合

第二 法律上ニ定メタル景況アルニ因リ
物件所有原六百五十三條六百ノ權
アル事又ハ義務原千二百八十ノ解
ニ條見合セ

除テ得タルヲ別段法律上ニ定ム
ル場合

第三 既ニ終審ノ裁判ヲ經タルノカ

第四 一方ノ者ノ自認又ハ請書對談書ノ
カ

第五百七十八條 法律上ニテ權利ヲ有スルノ
思料ヲ受クル者ハ其權利ノ證ヲ立ンニ及ハ
ス

法律上ノ思料ニ因リ證書ノ効ナキ事又ハ詐
証ヲ為スヲ許サザル事ヲ法律上ニ定メタル
時ハ其思料ニ反シタル證書ヲ立ルヲ許ス
ス

法律上ニ定メサル思料ヲ事

第五百七十九條 法律上ニ定メサル思料トハ
裁判役ノ知識ト思慮トニ因リ為ス所ヲ云フ
但シ裁判役ハ沉着ニシテ詳明符合シタル思

料ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス又證人ヲ
以テ證書ヲ立ルコトヲ法律上ニ許シタル場合
ニアラサレハ其思料ヲ為ス可カラス尤トモ
詐偽ヲ原由ト為シテ證書ヲ取消サント許ス
ル時ハ格別ナソトス

自認

第五百八十條 一方ノ者ノ自認ハ裁判所外
ニ為スモノアリ又ハ裁判所ニ於テ為スモ

ノアリ

第五百八十一條 一方ノ者裁判所外ニテ言詞

ノミヲ以テ自認ヲ為シタルコトヲ相手方ヨリ

述ケルト雖モ證人ヲ以テ證ヲ立ルコトヲ許ス

場合ニ於テハ其効アル可シ

第五百八十二條 裁判所ニ於テ為シタル自認

トハ一方ノ本人又ハ其本人ヨリ特ニ證書ヲ

以テ任シタル名代人裁判所ニ於テ述ノル所

ヲ云フ

一方ノ者自認シタル所ハ事實ノ錯誤ニ因リ

之レヲ為シタルノ證アルニ非サルハ之ヲ取

消ス可カラス

請書對談書ノ事

第五百八十三條 裁判役訴訟ノ判決ヲ為スニ

自一方ノ者自認シタル旨ヲ記シテ確證トナ

サシム此レヲ請書ト云フ

第五百八十四條 又裁判及ノ余ニ因リ一方ノ
者ノ自認シタレ時ハ原告被告雙方承諾ノ上
連名連印ノ書ヲ作り其旨ヲ記シテ裁判一所ニ
出サシム此レヲ對談書ト云フ

第五百八十五條 負債者償還ノ證ヲ立ルコト
能ハサルトキ裁判役其者ニ對シ請書又ハ對
談書ヲ出サシムレシ

契約ナクシテ生ラスル義務

第五百八十六條 義務ノ中ニ之レヲ行フ可キ
者モ之レヲ得可キ者モ契約ヲ為スコトナク
シテ生ラスルモノアリ
此ノ義務ハ法律上ニテ生ラスルモノアリ又
ハ一方ノ者ノ所為ニ因リ生ラスルモノ
アリ
法律上ニテ生ラシタル義務トハ相隣シタル
土地ノ所有者ノ間ノ義務又ハ後見人又ハ

引キ受ケ人等總テ已レノ任セラレタル職務
ノ如ク人ノ意ニ因ラスシテ生ラシタル義務
ヲ云フ

一方ノ者ノ所為ニ因リ生スル所ノ義務ハ准
契約ヨリ生シ又ハ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加
ヘ或ハ過失ニテ人ニ損害ヲ加ヘタル所為ヨ
リシテ生ス

准契約

第五百八十七條 准契約トハ人ノ隨意ニ行
タル所為ニ因リ他人ニ對シテ義務ヲ生シ又
時トシテハ其所為ニ因リ雙方ノ間ニ互ニ義
務ヲ生スル事ヲ云フ

第五百八十八條 自己ノ隨意ヲ以テ他人ノ事
務ヲ管理スル時ハ本人之ヲ知ルト知ラサル
トヲ問ハス其管理ノ為ス者其為シ始メタル
管理ノ繼續シテ為シ本人自カラ其事務ヲ管

理ヲ為スヲ得可キニ至ル迄其管理ヲ成就スルノ手續ヲ為ス可キ義務ヲ負フタリトス又其管理ヲ為ス者ハ其事務ニ附帯シタル諸事ヲモ引受ケサルヲ得ス

此管理ヲ為ス者ハ其本人ヨリ別改名代ノ證書ヲ受ケタルニ等シキ義務ヲ行ノ可シ

第五百八十九條 若シ本人其管理ノ事務ノ終成スル前ニ死去スルトアリト雖モ管理ヲ為

ス者ハ其死者ノ家督相續人管理ヲ為スヲ得可キニ至ル迄其管理ヲ繼續シテ行ハサルヲ得ス

第五百九十八條 管理ヲ為ス者ハ之ヲ為スニ付キ極メテ懇切ニ注意スルヲ必要トス

第五百九十條 他人ノ事務ヲ管理スル者適宜ニ之ヲ為シタル時ハ其者本人ノ名前ニテ人ト契約シタル義務ハ本人ヨリ尽クス可シ

又其者其管理ノ為メ自己ニ擔當シテ尽クシ
タル義務ハ本人ヨリ之ヲ其者ニ償ヒ且其者
ノ費用モ亦本人ヨリ之ヲ償フ可シ

故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル所行
及ヒ過失ニテ人ニ損害ヲ加ヘタル所
行

第五百九十二條 何事ニ依テス人ニ損害ヲ加
フル所行ヲ為シタル時ハ其償ヲ為ス可シ

第五百九十三條 如何ナル人ト雖モ故意ヲ以
テ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノ
ニ非ス自己ノ懈怠又ハ疏漏ニ因リ人ニ加
ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

第五百九十四條 己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損
害ヲ償フ可キノ義務アルノニ非ス自己ノ
引受ク可キ者又ハ自己ノ管守スル物數類等ヲ云フ
ノ所為ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償

ヲ可キノ義務アリ

父母ハソノ同居ノ幼者人ニ加ヘタル損害ヲ
償フ可シシ家長及ヒ人ヲ使用スル者ハ其雇
人及ヒ使用ヲ受クル者ノ其任ヲ受ケタル事
ニ付キ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

師匠ハ其弟子已レノ管照ヲ受クル時間ニ人
ニ加ヘタル損害ヲ償フハシ

父母又ハ師匠タル者ソノ子又タハ弟子ヲ人

ニ損害ヲ加ヘシ所行ヲ防制スルヲ能ハサル
ノ證ヲ立ル時ハ其責ヲ免ルハシ

第五百九十五條 獸類ノ所有者又ハ獸類ヲ用フル
者ハ之ヲ用フル時間ニ其獸類ヲ管守シタル
ト其徘徊逃逸シタルトヲ同ハス其獸類ノ人
ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

大政官

大政官

大正官